



TAKAMURA

会報 | 2011
No.22

110周年記念号

東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会

特集

110年の歴史をひもとく

——調べてビックリ!! 修学旅行—— …… 7~11



総会案内	1
総会の講師紹介	2
笹会会長・校長挨拶	3
創立110周年記念式典・祝賀会	4
110周年おめでとうございます	5
創立110周年記念事業	6
第3回笹会特別セミナー報告	12~15
なつかしの先生	16
学校の活動報告	17
在校生の活躍紹介	18
竹早エコー	19~21
関西・湘南笹会だより	22
笹情報館・回覧板	23・24
竹早山荘から・笹会学年幹事連絡会報告	25
第4回笹寿会開催と次回のお知らせ	26
平成22年度総会・懇親会報告	27・28
理事会報告	29
お知らせ・訃報・編集後記	30



会報編集委員

- 委員長 香川 洋子(20回生)
- 委員 榎本 毅(16回生) 岩瀬 正司(20回生) 松丸 直樹(21回生)
 佐藤 美紗子(16回生) 小田 みどり(20回生) 吉岡 新(21回生)
 野川 淑子(18回生) 小池 恵美子(21回生) 今井 大弥太(22回生)
 木村 民子(19回生) 小出 あつ子(21回生) 古関 恵一(29回生)
 菅原 博子(19回生) 佐藤 一枝(21回生)
 池上 美知子(20回生) 島村 直子(21回生)

笹会報

発行日 2011年4月22日
 発行 笹会
 〒112-0002
 東京都文京区小石川4-2-1
 東京都立竹早高等学校内
 連絡用電話 090-8853-1901
 http://www.takamurakai.com

編集 笹会 会報編集委員会
 印刷 望月印刷株式会社
 埼玉県さいたま市中央区円阿弥5-8-36

平成23年度 篁会総会のご案内

今年は篁会が発足して110年にあたります。
皆様ふるってご参加ください。

日時 2011年 6月19日 日

受付開始 10:30
総会 11:00~11:40
講演会 11:45~12:30
懇親会 12:40~14:50

会場 東京ドームホテル
B1 [天空]

東京都文京区後楽1-3-61
TEL 03-5805-2111

会費 8,000円

平成20年~22年卒は 2,000円
平成23年卒は 無料

- ご出席の方は、同封のハガキで5月27日(金)までにお申し込みください。
- 会費は、5月27日(金)までに同封の郵便局の払込取扱票でお振り込みください。

交通のご案内

- JR総武線 「水道橋駅」東口より徒歩2分
- 都営地下鉄三田線 「水道橋駅」(A2)出口より徒歩1分
- 都営地下鉄大江戸線「春日駅」(6番)出口より徒歩6分
- 東京メトロ丸ノ内線「後楽園駅」(2番)出口より徒歩5分
- 東京メトロ南北線 「後楽園駅」(2番)出口より徒歩5分
- 羽田空港からの乗り継ぎ
東京モノレールで「羽田空港」→「浜松町駅」 JR山手線・京浜東北線で→「秋葉原」 JR総武線で→「水道橋駅」



今回幹事

高校21回生:昭和44年卒
高校32回生:昭和55年卒
高校42回生:平成2年卒
高校62回生:平成22年卒

次回幹事

高校22回生:昭和45年卒
高校33回生:昭和56年卒
高校43回生:平成3年卒
高校63回生:平成23年卒

総会・懇親会のお問い合わせ先

吉岡 新(21回生)
TEL090-3135-7738
佐藤 一枝(21回生)
TEL090-6002-2223

心理学から男と女の間をみれば

—男と女のあいだには—



講師 伊藤裕子氏 (21回生)

「男と女の間には深く暗い川がある」とその昔うたわれたように男性と女性の間にはいろいろな立場から関心が寄せられてきました。伊藤さんは高校卒業後、東京教育大学(現 筑波大学)に学び、心理学の立場から時代的な背景もあってマイノリティ研究者として出発され、現在に至るまで「ジェンダー心理学」として男女の間について研究を続けてこられました。

最近ではアンケート調査や統計データを分析するという方法で、もっぱら夫婦の関係を研究されているそうです。当日は、女性の瘦身願望をめぐる話と「夫と妻では結婚の意味が異なる」というお話をデータに基づきながらご講演いただきます。興味深い内容です。どうぞお楽しみにご出席くださいますようご案内いたします。

伊藤裕子氏 プロフィール

《経歴》

竹早高校卒業(21回生)
東京教育大学教育学部心理学科卒業
筑波大学大学院心理学研究科博士課程修了
博士(心理学)
現在、文京学院大学人間学部心理学科教授
専門は発達心理学

《著書等》

『青年期における性役割観の形成』(風間書房)
『青年の心理学(共著)』(有斐閣)
『ジェンダーの発達心理学(編著)』(ミネルバ書房)
『ジェンダー・アイデンティティ(編著)』(至文堂)揺らく女性像



総会後の懇親会で感謝状の贈呈

府立第二高女および都立竹早高校の二校の同窓会・篁会として110周年の節目にあたり、これまで様々な機会に多大な貢献をされた諸先輩・高校関係者の皆様に感謝状を贈呈させていただく予定です。

明日へのために

府立第二高女から都立竹早高校へと受け継がれた同窓会・篁会は今年110年の節目を迎えました。支えてくださった多くの先輩がたと、自主自律の精神を発揮し活躍されている卒業生皆さまに、心より感謝申し上げます。

3月11日、東北、関東地方を襲った大地震とかつてない大津波、加えて原発事故。被災された方がたの現状に胸が痛みます。行き届かぬ支援の手に歯がゆさも感じますが、けなげな子どもたちの笑顔に救われます。

日本の四季を自然の恵みとして漁業や農業に携わってきた東北の方がたは、常に感謝の気持ちと一体。ですから避難所で暮らす人びとは、命のあること、おにぎりひとつにも一様に「ありがたいです」と言われます。贅言言うたらご先祖さまに申し訳ない、というお気持ちに添いながら、その先にある「これから」に向けて、国民皆が等しく知恵を絞り、力を出しあう時であると感じます。

十年ほど昔の初冬に、アラスカ州西部のベセルという港町を訪ねました。アリューシャン列島の付け根あたりです。冬場はシアトル、アンカレッジと乗り継いで、貨物機の一部が客席という飛行機に揺られて到着です。人口5千の8割を占めるユーピック(エスキモー)は鮭漁で暮らしています。石斧がちょっと進化したようなULUという刃物で鮭

磯貝 恵三

高校7回生 昭和30年卒(篁55回生)



をさばき、皮で袋や衣服も作ります。

かれらの生活信条はSubsistence、哲学語では存在、生存ですが、ここでは自給自足、あるいは必要にして十分な暮らししかた、と解釈します。杭も打てない永久凍土の上にフォークリフトのパレットを並べ、その上に住まいが乗ります。川の水をタンクに貯めて5段階に濾過し、順にトイレ、風呂、洗濯、炊事、飲料に使います。排水もタンクに貯めてから処分します。この極寒の地で、清々しい生きかたの原点を学び直しました。

欲張らない暮らししかたを工夫することも、復興支援のひとつと言えましょう。

さて、篁会の会計ですが、周年基金と併せて潤沢とはいえませんが多少の余裕はあります。会員皆さまのご理解をいただき、篁会の資金の一部を被災地支援のために役立てていただくことも考えられます。いかがでしょうか。

この災害を乗り越えるために、いま大切なことは苦しみや悲しみのみならず、明日への希望も分かちあうことです。もやいの精神で。

被災地復興への道すじに思いを馳せ、末筆ながら会員各位のご健勝をお祈りいたします。

竹早の111年目に向けて

丹藤 浩

竹早高校校長



育活動も「誇るべき母校」を次代に引き継ぐ確かな一歩となるよう努めたいと存じます。

本校では中学生やその保護者に対して、「先輩から学びます」として3回を数えた特別セミナーについて紹介しています。各界に活躍する同窓生から刺激を受け、竹早生が今後の自分の生き方について考える機会を得られるのは、伝統校であるがゆえの強みです。こうした強みを、募集活動でも重視して広く知らせており、中学生やその保護者からは好意的に受け止められています。また、キャリア教育の一環としても、高校時代に広くさまざまな人々から、しかも同じ学校の先輩から、その生き方や仕事、そこに至る葛藤や体験の一端を聞くことができるのは、現役生徒が考えを深める上で、何にもまして素晴らしいことです。今後とも、その継続と充実を図って参りたいと存じますので、皆さまには引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年11月6日、本校創立110年の周年行事を挙行いたしました。式典、祝賀会ともに同窓生の皆さまから多くのご支援をいただき感謝申し上げます。100周年から10年という考え方で準備を進め、会場も学校でということもあり、ご案内等については範囲を限定させていただきましたが、ご容赦くださいますようお願いいたします。当日は、秋晴れのよき天候に恵まれ、第2部では本校の歴史を振り返る創作劇を披露し、練習の成果を十分に発揮して多くの方々から「さすが竹早」とのお褒めの言葉をいただきました。改めて、伝統の力を感じた一日でした。

歴史ある本校も、22年度、新たに都教委から「進学指導推進校」の指定を受け、国・数・英などの5教科については、教員の公募が許されるようになりました。竹早高校で教科指導を行いたいという強い意志を持つ教員を迎え入れられ、今後よりいっそう教科指導の充実を図ることができると考えています。過去の実績に胡坐をかかなく、新たに都民の信頼に応える学校をめざして進学指導を充実させ、また、本校の伝統にかなう全人教育を根幹として、次の111年目の教



都立竹早高等学校創立110周年記念式典と祝賀会

厳かな記念式典

2010年11月6日、秋晴れのもと、篁会からは20名が出席し、母校体育館にて記念式典が盛大に挙行されました。第一部では、丹藤浩校長が祝辞の中で「いつの時代にも、竹早高校は、校舎に恵まれず、狭い校庭、設備の不備などに苦しんできたが、その環境を乗り越えることで竹早生は力をつけてきたように思われる。これからも同窓生の誇りである学業のレベルの高さ、竹早の品格を受け継ぎ、自主自律を旨として欲しい」と生徒たちにメッセージを送りました。

生徒代表の前田桜子さんも、それを受けて「自由には責任が伴うことを自覚して行動したい」と抱負を述べました。最後に、全員で校歌を斉唱し、厳かな中にも暖かい雰囲気でも式典は終わりました。

第2部の生徒のパフォーマンスに感動

引き続き、生徒たちによる第2部に移り、まず最初はパワーポイントによる学校沿革紹介がありました。110年前の創立から、府立第二高女時代、新制竹早高校、新校舎落成まで、写真構成と生徒のナレーションで辿っていきます。はかま姿の高女生やたけのこネクタイの女子生徒、男子5名入学当初の記念撮影や、体育祭の様子、ヒマラヤ杉の校舎など、次々映し出される映像に、会場からはたびたび歓声が上がりました。また、第二高女の校歌を演劇部の女子生徒たちが澄んだ高い声で斉唱したときには、感激もひとしおでした。

続いてのダンス部、箏曲部、演劇部、吹奏楽部総出演の創作劇「思いをつないで」は構成の妙が生き、圧巻でした。ダンス部の元気のいいストリートダンスで幕開け、彼らがタイムスリップしたところは竹早の100年ほど前の時代とい



う展開で、矢絣の着物の女学生が箏曲「さくらさくら」と「三段の調べ」を奏でます。そしてひとりの女生徒が、自分の進路はたとえ厳格な父親が反対しても自分で決めたいという覚悟を語ります。平塚らいてうの有名な「元始女性は太陽であった」という詩を友人と二人で語らるシーンまであって、当時の女学生たちの心意気を語るに十分な内容でした。

次にトランペットソロが流れ、いつのまにか、現代に戻ることができたダンス部の生徒たちと共に、吹奏楽の素晴らしい演奏を楽しみました。曲目は「舞楽」と格調高いコンサートマーチ「アルセナール」で、皆高揚した気分のうち



に、幕が閉じられました。開けば、これは戸谷先生の熱心な指導の下、生徒たちが練習を重ね、本番で見事に力を発揮した結果だそうです。同窓生も来賓も口々に誉めそやしていたことは言うまでもありません。

先輩後輩が和やかに歓談の祝賀会

祝賀会は会場を私学会館アルカディア市ヶ谷に移し、和やかに行われました。学校長挨拶、父母と教師の会会長挨拶に続き、篁会磯貝会長の挨拶、榎本副会長の乾杯と続き、会場内のここかしこで和やかな歓談の風景が見られました。アトラクションには竹早23回生の伊藤耕司さんによるチェロの演奏やフルート、ピアノとの競演などもあり、彩りを添えました。

報告/木村民子(高校19回生)

※竹早高校で作成の創立110周年記念誌の発行費用の一部を篁会として補助しました。

110周年おめでとうございます



「大先輩」

水原 康子

高女45回生(昭和20年卒) 簗45回生

竹早高校創立110周年の式典も滞りなく終わり、更なる前進の皆さま、おめでとうございます。私達卒業生は、いつも学校が正しく繁栄されることを希い見守って居ります。

この原稿のお話があって、ご近所にお住まいの大先輩、高女30回生、村瀬正子様にお話を伺うことにしました。大正元年生まれの99歳、15年に第二高女へ入学、昭和5年卒業で、息子様ご家族と同じ敷地内で、独立して生活をしていらっしゃいます。私はお元気で少しも年寄でない村瀬様にお会いすることが楽しく、昔の第二の教育をしっかりと身につけられていると感じ、明日への力を頂いています。入学された当時の学校は木造で、級に決った教室はなく、毎時間荷物を持って移動し、各々の教室で授業を受けられたとのこと。別棟で雨天体操場、更衣室、またお料理室の上がお作法の畳の部屋、

化学教室など、すらすら見取図を書き乍ら、活発だった女学生生活を話して下さいました。入学の時はもう洋服で、制服はなく家に帰られると和服に着替えられたとのこと。8歳上の姉上は同じ第二ですが、袴着用のお着物と編上靴で通学していらっしたそうです。当時テニス、バレーボール、バスケットと盛んで、水泳は千葉へ、スキーは湯沢へ希望者が行き、懇切な指導が受けられたこと、バスケットか何かの祝賀会の時、アメリカ大使が見えられ、派手な縞のYシャツを着ていらしたことなど、笑い乍ら話されました。また修学旅行で関西へ行き、その帰途は神戸から香取丸に乗船、横浜へ。酔って御馳走は食べられなかったとか、次から次へと涙みなく、よいお話が伺えました。

私は村瀬様のように少しも老いを見せず毅然とした態度で過してられる大先輩がいらっしたということを誇りと思ひ、第二高女の教育が立派だったことを確信して大先輩に近づきたい気持ちで一文にしました。



「出会い」

金子 浩子

高校2回生(昭和25年卒) 簗50回生

「簗会」創設110周年、おめでとうございます。

つい、このあいだ100周年をお祝いしたばかりと思っておりましたが、時の流れの早さには驚くばかりです。この度、時代に即して発展し続けている「簗会」の110周年を記念してお祝いできることは、誠に、ご同慶の至りでございます。

思えば、過ぎ去った10年間、多くの恩師、先輩、同輩、後輩の皆さまとの沢山の「出会い」がありました。また、こうした方々と、どんなにか親しくまみえることが出来ましたことでしょうか。この経験は、私にとりまして貴重な宝となっておりますことを、有難く深く感謝申し上げる次第でございます。

さて、「人との出会い」が、素晴らしくセレンディビティ(偶然に大きな発見をする)の世界に関わりがあるかと云う例(ご存知の方も多しと存じますが…)をお話いたします。

ある日、スコットランドの貧しい農夫フレミングは、庭先の肥溜めに落ちて泣き叫んでいる少年を助けました。翌日、立派な馬車がフレミングの庭先に止まり、身なりのエレガントな貴族が降り立ったのでした。肥溜めに落ちた少年の父親でした。その貴族は、フレミングに言うのです。「息子を救ってくれたお礼に、何がし

か支払いたい」。誇り高い農夫フレミングは、己がした行為であり、お金を受け取る訳にはいかない…と、答えます。丁度、その時、農夫の門口に少年が現れます。貴族は、農夫の子供であることを確かめて、「では、助けて貰った我が子が受けているのと同じ教育を、貴方のあの息子にもさせてやりたいが、如何なものか?」。フレミングは、それであれば良いと思ひ、「Yes!」と答えたのでした。

フレミングの息子は、貴族の息子と一緒に同じ最高の教育を受け、長じて彼はロンドンの大学で医学を修めました。彼こそ、ご存知、ペニシリンの発見者となった、サー・アレクザンダー・フレミング、その人です。肥溜めから助けられた少年は、大人になった或る時、酷い肺炎を患います。この時、彼の命を救ったのは、ペニシリンでした。貴族の名は、ロード・ランドルフ・チャーチル。肥溜めの少年の名前は、サー・ウィンストン・チャーチルその人です。

上記のような劇的な「出会い」のセレンディビティは、滅多にあるものではありません。しかし、私は、母校の会に参加して、世代を超えて校友と親しく同じ時を持つと言うことは、その可能性が潜んでいるのかも知れないと考えます。又、この「出会い」は、必ずや、何らかの形で人生を豊かにする素となると信じているのです。

「出会い」を大切に、次の10年も「簗会」が、益々、発展していけますよう、切に祈っております。

竹早高校創立110周年記念 シンボルマーク

選考結果の報告

竹早高校創立110周年を記念して、昨年の会報21号でシンボルマーク(またはキャラクター)のデザインを募集したところ、簗会会員と在校生から24点の応募がありました。1月に学校関係者と理事が一同に会し、審査を行いました。作品はすべて作者名を伏せ、各作品に番号を付けて展示し、投票しました。応募作はどれもレベルが高く、選者の方々も大変苦勞されました。

キャラクター作品には、竹をモチーフにしたユーモラスな可愛い作品もあり、また、シンボルマーク作品には、竹やTAKEHAYAのTをデザイン化したシンプルな作品が並びました。

その結果、最優秀賞は磯貝恵三さん(高校7回生)の作品、優秀賞は青山俊也さん(高校29回生)、藤井賜恵さん(高校59回生)の2作品、佳作は香川洋子さん(高校20回生)、峰岸紗希さん(在校生美術部)の作品がそれぞれ入賞しました。

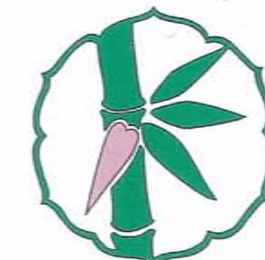
しかし、最優秀賞の磯貝さんは現役の簗会会長でもあり、受賞をご辞退されたため、今回の最優秀賞は該当なしとしました。

応募者の皆様、関係各位の皆様、御協力ありがとうございました。

シンボルマーク選考委員長
板東尚武(簗会理事・高校13回生)



優秀賞
青山俊也さん
(高校29回生)



優秀賞
藤井賜恵さん
(高校59回生)



★竹早高校創立110周年記念「オンライン・タイムカプセル」の提案は、残念ながら応募がありませんでした。

簗会110周年に向けての新たな活動(案)

2011年は簗会として110周年の節目にあたります。この機会にさらに第二高女/竹早同窓生が時代を超えて親睦を深め、また高校/父母と教師の会/簗会の互いの協力に資する活動を推進したいと考えております。

来る6月開催の簗会総会・懇親会に向けて以下の企画を、理事会および担当部会の会議で検討中です。会員の皆様には、本企画にご理解・ご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

簗会教育基金の創設

100周年事業基金の一部を原資として新たに簗会教育基金を設立することを総会で提案いたします。これは竹早高校に、教育に関わる経費などの支援を行うと共に、優れた人材で経済的理由のある竹早生若干名に奨学金を給付いたします。本基金は広く同窓生などからの寄付を元に持続可能な規模で行います。これにより従来の竹早高校への支援は新たなスタートとなります。

その他提案予定の簗会110周年企画

- ◎府立第二高女の記念モニュメントの制作や植樹
- ◎Tシャツなど記念品等の製作・販売
- ◎会員/父母向けのお料理教室と講演の夕べ

簗会110周年 総会後の懇親会で感謝状の贈呈を行います

これまで様々な機会に多大な貢献をされた諸先輩・高校関係者の皆様に感謝状を贈呈させていただきます。この表彰が、簗会の世代を超えた連携あるいは竹早高校/父母と教師の会/簗会の三位一体の連携など未来志向の一步となることを願っております。

110年の歴史をひもとく

—— 調べてビックリ!! 修学旅行 ——

竹早の修学旅行はいつから始まったのだろう、という素朴な疑問から竹早高校百周年記念誌である『竹早の百年』をひもといてビックリ! 大正時代から7泊8日もの旅行が実施されていたのです。朝鮮半島にまで足を伸ばした旅行もあり、高女の先輩方のパワーに圧倒されつつ、当時の世相とあわせて年表にしてみました。 —— 高校21回生の編集による ——



大正6年頃の遠足出発風景(両国駅)
『竹早の百年』より



本格的な修学旅行
『竹早の百年』より

7泊8日の大旅行。伊勢、奈良、京都、大阪、明石



修学旅行参加者のほぼ全員が洋装帽子をかぶる者も大勢
『竹早の百年』より

第二高女5年生が初めての1泊宿泊旅行で日光へ

修学旅行の帰路に大型客船を使い洋食マナーなども取り入れる

大3
1914

大7
1918

大9
1920

大11
1922

大12
1923

大14
1925

昭2~4
1927~9

昭6
1931

鈴木三重吉
子供のための『赤い鳥』を出版(大7)



広島市立中央図書館所蔵

東京市バスに女性車掌登場(大9)

関東大震災 M7.9



市バスの国産一号車(大13)
東京都交通局提供

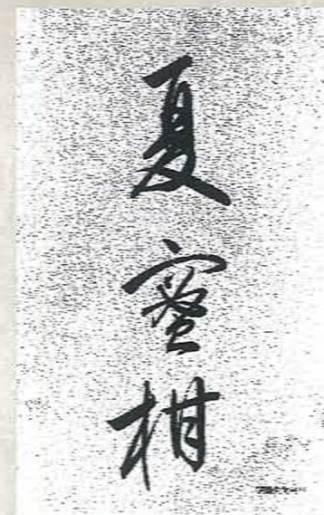
1929~大恐慌

満州事変



東京駅完成(大3)
あすなる書房
『歴史と文化の町たんけん③東京をたずねる』より

朝鮮関西旅行記(昭16.9発行)



『竹早の百年』より

朝鮮半島
↓
奈良、京都、伊勢
(強行軍)

朝鮮半島・関西
12泊13日の大旅行

昭14.15
1939.40

1939.9~
第2次世界大戦



昭和からの贈りもの提供

朝鮮総督府



稲葉様所蔵

3泊4日
関西旅行

昭16
1941

太平洋戦争

日比谷公園で穀類・野菜類等を栽培

上野動物園でクマを射殺
猛獣処分へ

米の配給



昭和館提供

朝鮮半島大旅行



稲葉様所蔵



『竹早の百年』より

3泊4日
東北旅行

昭18
1943

児童福祉法改定により深夜の花売り娘職を失う

第二高女 戦時中の運動会が鍛錬大会となった



『竹早の百年』より

昭19~21
修学旅行途絶える
(記録なし)

昭19
1944

ポツダム宣言受諾

昭20
1945



「竹早の百年」より

21回生 奈良



21回生卒業アルバムより

21回生 京都



21回生
修学旅行へ
3泊4日 京都、奈良



「鉄道ピクトリアル」編集部提供

「ひので号」登場

これにて
第二高女の
修学旅行は
幕を閉じる
↓
2泊3日
日光方面

戦後初の
修学旅行か

高女5年生
1泊2日 箱根

新制高校の
修学旅行4泊
5日 京都

昭22 1947 昭23 1948 昭26 1951 昭28 1953 昭31 1956 昭34 1959 昭39 1964 昭43 1968

昭22年(1947)
6・3・3制
教育基本法成立

昭24年(1949)
日本人初のノーベル
賞(湯川秀樹博士)

昭28年(1953)
NHKテレビ
放送開始

昭31年(1956)
売春防止法成立

昭39年(1964)
東海道新幹線開通
東京オリンピック開催

東海道新幹線0系



裏辺研究所提供

東京オリンピック記念硬貨



Wikipedia より

平成22年修学旅行日程(2年生)

12月14日

羽田空港発8:15→那覇空港着11:10
南部戦跡地帯見学と平和講話
*ひめゆりの塔・資料館「体験談」
*糸数塚(アブチラガマ)
ガイドの方の当時の状況説明
*摩文仁の丘・平和の礎

12月15日

各コースに分かれ体験学習
A: 沖縄料理作り(13名)
B: 沖縄お菓子作り(68名)
C: 沖縄そば打ち(31名)
D: 沖縄やちむん(焼き物)(17名)
E: 赤瓦しゅくのシーサー作り(23名)
F: ちゅら海 自然観察とマリクラフト(89名)
G: 海のガラスとガラス加工(43名)
H: 慶佐次川 カヌーとマリクラフト(101名)

12月16日

班別に、タクシーにて終日自由行動



12月17日

首里城公園・国際通りにて
班別自由行動
那覇空港発/16:50→
羽田空港着/19:00

12月に3泊4日
飛行機で沖縄へ

朝鮮・関西旅行日程 昭和15年5月

※写真は昭和14年のものです
(稲葉様所蔵)

5月6日

○東京発 午後5時55分
夜行にて(車中泊)

5月7日

○京都着 午前5時29分
○京都市内見学(京都泊)

5月8日

○京都発 午前7時
○下関着 午後5時45分
○下関発 午後10時30分
(関釜連絡船中泊)

5月9日

○釜山着 午前6時 慶州へ
○仏国寺 石窟庵見学(慶州泊)

5月10日

○早朝 鶏林小学校の朝礼に参加
○慶州市内見学
(四面石仏・武烈王陵等)後、京城へ
(京城泊)

5月11日

○京城市内見学
(朝鮮神宮・博物館・総督府・景德宮等)
(京城泊)

5月12日

○京城発 午前8時5分
○平壤着 午後3時14分
○市内見学(牡丹台・七星門・箕子廟・玄武門等)(平壤泊)

5月13日

○平壤発 午後2時30分(車中泊)

5月14日

○釜山着 午前8時44分
○釜山発 午前11時45分
○下関着 午後7時30分
○下関発 午後9時20分(車中泊)

5月15日

○大阪經由 奈良着 午前9時9分
○奈良市内見学(東大寺・三笠山・
春日神社・興福寺)(奈良泊)

5月16日

○奈良発 午前7時9分
○橿原神宮参拝
○吉野着 午前11時28分
○吉野見学
(蔵王堂・如意輪寺・
吉野神宮・竹林寺)
(吉野泊)

5月17日

○吉野発 午前7時10分
○宇治山田着 午前10時14分
○伊勢神宮 内宮・外宮参拝
○宇治山田発 午後6時45分
(車中泊)

5月18日

○東京着 午前6時5分 解散



修学旅行の年表は「竹早の百年」を出典としております。

—70年の時を越えて—

朝鮮旅行・インタビュー

大正時代に始まった修学旅行の中でも、ひときわ目をひいたのは、昭和14、15年に行われた12泊13日に及ぶ朝鮮半島にまで足を伸ばした旅行でした。このたび、昭和14年の1回目の旅行に参加された高女40回生・稲葉良子さん(87歳・写真左)、小畑勢津さん(88歳・写真右)のお二人から、お話を伺いました。



【今生の別れ…】

司会 本日はありがとうございます。よろしくお願ひ致します。
稲葉 小畑 もう昔のことなので、記憶も薄れてしまっていて、お役に立ちますかどうか。
司会 修学旅行に行かれたのは高女の何年生の時でしたか？
小畑 5年生の時。卒業する前の年の春ですね。
稲葉 そう、17歳と、早生まれは16歳でした。
司会 学校の行事としても、かなり遠くに行くわけですから親御さんは反対されませんでしたか？
稲葉 行かない方のほうが多かったですね。
小畑 私は、両親とも行け行けと言って出してくれました。出発が夕方だったので、母が心配をして東京駅まで送って来てくれましたが、今生の別れになるかもしれないと言っておりました。

【いざ、朝鮮へ — 関釜連絡船に乗って—】

司会 まずどちらへ行かれたのですか？
稲葉 安芸の宮島に行って、それから下関に行きました。
小畑 下関から夜行の関釜連絡船に乗って、朝、釜山に着きました。
稲葉 船底に皆で寝そべっていたのですが、波が高くてかなり揺れました。ほとんどの人が船酔いしましたが、私は酔わなかったの、食堂でお食事をしたり、海を眺めていました。
司会 昭和15年に行かれた方達のスケジュールを見ると、釜山から慶州に行かれていますのですが、14年の時は釜山から京城(ソウル)に行かれたわけですね。
小畑 そうです。私達の時は1回目だったので試験的な意味もあって、平壤(ピョンヤン)までは行きませんでした。京城で2泊、それから慶州に行って1泊、海雲台でも1泊したと思います。慶州ではお寺を回りましたが、仏国寺の多宝塔がとても印象に残っていますね。

【朝鮮に山は無かった…】

司会 実際に朝鮮に行かれて、どのような感想をお持ちになりましたか？
稲葉 とにかく土地が平坦で、行けども行けども山も何もない。木がまったりぼつりと立っているのを眺めながら、皆でワイワイ騒いでいましたね。若かったですからね。
小畑 京城では、京城に住んでいる高女先輩方がお世話をして下さいました。ホテルでお食事を馳走して下さいましたが、あれは美味しかったですね。
司会 朝鮮での食事は和食を食べられたのですか？
稲葉 そうです。和食だったのですが、にんにくの臭いがして私は食べられませんでした。
司会 宿泊も日本旅館でしたか？
小畑 そうです。畳の普通のお部屋です。
稲葉 大部屋でずらりと並んで雑魚寝です。修学旅行の定番よね。楽しかったですね。
司会 お土産などは買われたのですか？
稲葉 ええ、何を買ったかは忘れましたが、京城に三越があったので。そう言えば、三越に行った時、食堂で先生がお一人食事をされていたので、私達も、先生が召し上がっているならと、食事をしたのよ。私

違いたずら組で。
小畑 まあ、そんなことがあったの？
稲葉 勝手なことをした後で叱られたけど。先生も叱られていました。(笑い)
司会 京城や慶州での市内の移動は何でしたか？
稲葉 観光用の普通のバスです。
司会 遠距離は汽車ですよね？
小畑 当時は蒸気機関車です。夜行でも寝台車には乗りませんでした。トンネルに入ると窓を閉めないで煙で真っ黒になっちゃう。
司会 修学旅行の費用はいくら位だったのでしょうか？
稲葉 さあ、いくらだったか？ 1年生の時から積み立てをしていましたが、それに上乗せしたと思います。
小畑 それまでの修学旅行の倍以上はかかったと思いますが、いくらかかったかはわかりません。

【朝鮮旅行実現の背景は?】

司会 朝鮮に行くことになったいきさつは？
稲葉 当時の地理の先生が朝鮮や満州に非常に興味を持っていらして、授業の半分がそのお話でした。それで私達も憧れて、行きたい行きたいと皆で声を出したんですよ。
小畑 先生方が熱心に文部省に掛け合ってくれて、許可をとってくれました。皆で「万歳」なんて喜んだのを覚えています。
司会 「竹早の百年」に、当時の加藤覚亮校長が、東洋平和建設の目的達成のためには女子が発展をしなければいけない、という高邁な理想のもとに行われたと書かれていましたが？
小畑 そういう背景はあったでしょうね。そういう時代でしたから。女子の知育には非常に熱心でした。

【朝鮮から関西へ、そして帰途に】

司会 長い旅行でしたが、具合の悪くなった方はいらっしゃらなかったのですか？
稲葉 ええ、みんな元気でした。ただ、一人お茶目な人がいて、お風呂で転んでケガをしましたね。でも、全員無事に帰ってきました。
司会 旅行前に体力づくりをされたとか？
稲葉 そうですね。あの当時はとにかくよく歩きました。剛健遠足というのがあって、府中のほうまで歩いたりしましたね。
司会 留守番されていた皆さんは何をされていたのでしょうか？
小畑 学校で勉強をしていたと聞きました。
司会 帰りは釜山からまた関釜連絡船で帰ってこられたのですか？
小畑 そうです。下関から京都へ行き、京都から奈良、吉野、最後は伊勢神宮へお参りをして帰ってきました。
稲葉 京都で2泊、吉野で1泊しましたが、やっぱり大部屋で雑魚寝でした。皆でわいわい騒いで楽しかったですね。もう、楽しかったことしか覚えていませんね。
小畑 そう、もう70年も前のことですから。とにかく楽しかったですね。
司会 大変貴重なお話をお伺いすることができて、本当に有難うございました。

※この特集の地名などは、旅行当時のまま使いました。



第3回 篁会特別セミナー報告

2010年7月9日 3~4時間目

篁会では、竹早高校の高2在校生対象の特別セミナー、すなわち「篁会特別セミナー」を、ちょうど織姫彦星の出会いのように毎年1回7月に行っています。2010年は3回目を迎えました。さらに大きな挑戦もしてきましたが、これも過去2回の実施あって初めて可能になったチャレンジでした。卒業生が母校で経験を交えて講義をするという面を、より生徒の目線に立ち、聴きたい講義、刺激的なモノにブラッシュアップして来ています。

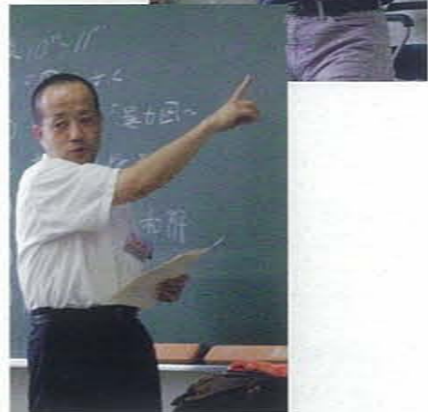
学校の総務の先生方、父母と教師の会の役員の方々には、多大なご支援を頂きましたが、本年はさらにそれが進みました。平日のお忙しい中を講義の準備を行い、駆けつけて下さった講師の先生には、労をおしまない講義ぶりに担当としてこの場を借りて心から感謝の意を表します。

まず今年のチャレンジ4点をご紹介します。

1 講義切り口の改良を目指す

今の竹早生にとって、既に卒業生は遠い存在、彼らの目線に沿った話がなければ、眠りを誘う子守歌になりかねません。そこで…

実施の意義を根本から見直すことにしました。高校生がインターネットや、就職雑誌、業者の情報提供などで表面的には知り得ても、リアルにその姿を伺い知ることのない各種職業のキャリアパスや様子について、卒業生自らが後輩のために苦心して用意したマテリアルにより紹介し、さらに達成感+苦勞の感想あるいは



2 高校/箠会/父母と教師の会で協力する

箠会だけの行事という側面から、生徒目線での企画に力を入れる過程で、高校/箠会/父母と教師の会では三位一体の協力が不可欠です。これは過去の懸案でもあった事柄ですが、お互いを知ることで、様々の立場から議論する手応えがありました。

3 講師陣の構成の若返りを図る

本年度は、実力派の方々に若手講師を加えて、全体として若返りを図りました。講義数が前年から増えた部分はほとんどを若い方々にお願いしました。

4 年間スケジュールを策定する

学校とのご相談で毎年の行事としてのスケジュール策定ができました。これにより始動を早めることができ、年度の仕事のイメージを持つことができました。

次頁に講義の内容・講師の先生の詳細をご紹介します。当日は、21講座、22名の先生が予定通り講義を行うことができました。多くの方々が、PCプロジェクタや模型などを用いてプレゼンテーションし、上手なお話をされたこともあり、どの講義も密度の濃い内容になりました。

ファイルのセキュリティ問題や、前年度の午後から午前へ移動したこともあり、PC/ファイルの不手際、機材操作で時間が掛かることがありました。この点は、今後の課題になりました。

ところで、箠会職員会長と父母の会三浦前会長に作って頂いたポスターも校内に掲示していただきました。わずか1日で大変素晴らしいものを作って頂きました。

右に簡単に開催データからご紹介をいたします。



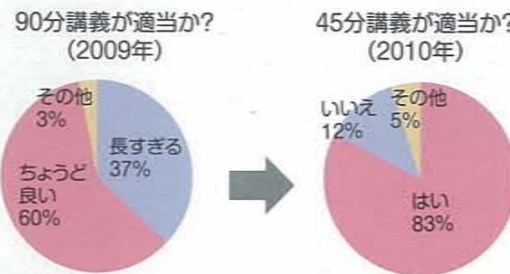
●箠会特別セミナーを実施する意義はあるか?



意義がある 23ポイント増加

実施意義:本年度生徒から肯定的な回答が多かった。(学校の進路指導とのリンクも将来は考慮が必要か、一方でキャリアパスに関心のない生徒への配慮も必要)

●講義の構成・時間は?

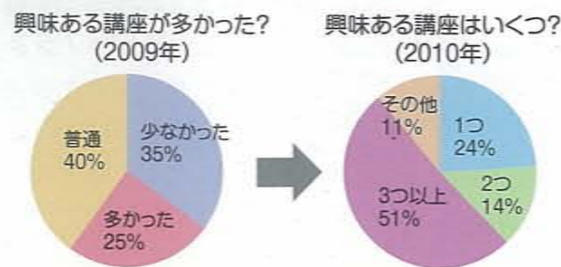


今回、第一希望を満たすため&生徒の多様な希望内容に沿う目的で45分2コマ選択方法を導入
アンマッチ 17ポイント減少

★45分講義に生徒から大きな支持があった。
★45分で不足との意見も少数あり。
(講義の種類、生徒の関心の強さ・深さ等により見られた)

90分講義が好適と思えるモノあり。講義内容・希望状況に応じ、やり方も変えることが一案。
(年1回の90分で行うか、様々な内容で回数が増加可能か等)

●講義の種類:興味ある講座数について



複数の講座に興味がある 26ポイント増加

興味がある講座数
●1つ以上の人 全体の89%
●2つ以上の人 全体の65%

第3回 箠会特別セミナー 講師および講義科目紹介

水田 茂夫 (23回生) 資産運用会社経営

国際金融の仕事

- 国際金融の仕事とは
- 留学を考える・外国の会社就職をする・外国に永住するには
- 日本人と外国人・英語だけは勉強しよう

鈴木 宏子・竹俣 耕一 (23回生) 公認会計士・税理士

税理士・会計士の仕事

- 税理士の仕事とは・公認会計士の仕事とは・資格を活かすには
- 仕事のおもしろさ・女性とキャリアについて

木島 明博 (23回生) 国立大学副学長

竹早高校七不思議・正しい大学の選び方

- 自分の高校生活の経験から生まれた大学選び、学部選択、そして急激な大学生活から研究の面白さへの目覚めと大学院受験、さらには研究者への道など自分の通ってきた過程をお話します。研究の姿勢(カッコイイものではなく、誰もやらない、やりたがらない研究を地味に積み上げていく遠げの研究姿勢)についても話します。

志賀 利一 (29回生) ヘルスケア商品研究・開発戦略

企業研究者の仕事〜機器開発第I部 企画〜研究

- 企業の研究者を目指すまでの道のり:きっかけ、強い印象を得た出来事
- 研究開発とはどのような価値があるものなのか、その大変さは何か・研究開発が企業を支えるメーカーのビジネス
- メカニカルエンジニアリングの開発プロジェクトの雰囲気はどういうものか・企業研究者の日々

仲尾 啓子 (29回生) 大手化学 分析グループマネージャー

女性研究者・技術者の仕事〜化学企業の場合

- 分析の仕事とは・女性に合った側面とは
- 女性研究者としての生き方・家庭生活と仕事・女性に向けた仕事・感動したこと

飯塚 均 (29回生) 鍼灸治療家 エステティシャン講師

治療家の仕事(美容エステ/鍼灸指圧)

- 治療家とは ー治療は医者ばかりの仕事ではない、どうしたらなれるか ー誰にでも道は開けている。
- 資格関係を活かすには ーエステティシャン・スポーツトレーナー
- 仕事の楽しさ・つらさ/女性の志望者が増えています。

山地 洋子 (18回生) フリーアナウンサー

アナウンサーの仕事(女性編)

- アナウンサーの仕事とは・アナウンサーになるには・面白い点、苦労したことなど
- 仕事の発展の可能性は...・女性の仕事としてみたら

木村 民子 (19回生) フリーライター・エディター

編集者・雑誌記者の仕事〜本を出すと言うこと、伝えるということ

- 本の出版・編集の仕事はIT社会においても価値ある仕事です。本を出版し、メッセージを伝えるというこの面白さや、意味を考えます。
- 編集者・雑誌記者の仕事とは・どんな能力や適性が必要か
- 仕事の面白さ(と苦労)・女性の仕事としての側面・子どもの本の重要性・社会的な影響力

磯貝 恵三 (7回生) プロダクト・デザイナー

製品開発とデザインの仕事

- デザインは人文、自然、社会科学に支えられながら生活環境を創造します
- △□(基本図形)が「かたち」の原点・アイデアの着想と展開(または椅子)を例題にして自由な発想をしよう。(実習)・デザインという仕事の紹介と学びかた

小堀 良一 (24回生) 彫刻家

彫刻家の仕事〜考える手

- 「夢の風」について語る 伊藤氏と百周年記念モニュメントの前で
- 彫刻家を志した理由・美術大学の彫刻科ではどのようなことを学ぶのか
- 彫刻の製作過程、他

泉 美知子 (19回生) 一級建築士・インテリアデザイナー「瑞木工房」

建築・デザインの仕事とは

- 建築設計の仕事とは/瑞木工房の作品をみていただきながら仕事の内容、流れを紹介
- 建築関連の資格と仕事について/建築士(意匠、構造、設備)、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター/建築設計の醍醐味(と苦労)

小林 稔 (23回生) 大手宝飾企業海外本部長

ブランドビジネス最前線

- ブランドビジネスとは何か・国際裁判で勝ち得たブランド〜ミキモトやソニーの場合
- ラグジュアリー・ブランドの試行錯誤
- 中国語やってみる? ークールジャパンに自信を持って!

熊澤 恵里子 (30回生) 私立大学教授

大学の研究者の仕事とは

- 国文研究の魅力・史料は語る/地域を歩く/コミュニケーション力/直感力/世界を歩く
- 大学教員(人文科学系研究者)になるには・真理の探究/失敗を恐れない/継続は力なり/研究のオリジナリティ/研究と教育
- 女性のキャリアとしての大学教員とは・男女平等の建前と本音/インディペンデント/センスを磨く/女性のキャリアづくり

秋元 哲生 (29回生) 医学部准教授・医師

医師の仕事

- 医者を目指すまで・自分が医学部受験に目覚めた瞬間とは
- 医学の専門分野の特徴・放射線医学(がん治療)とは/そのやり甲斐と困難さ
- 米長永世棋王(将棋)との出会い・主治医として

北村 健史 (29回生) 医用イメージング技術開発

企業研究者の仕事〜機器開発第II部 開発〜設計

- 企業が医療機器を開発して病院で使われるようになるまでをお話します。
- 開発設計者の日々の業務・仕事について解説します。
- ちょっとしたゲームをやってみようつもりです。

大原 章博 (29回生) 東京都 中学校副校長

中学校教師の仕事

- 中学校教師の仕事・やりがい、大変さ、教師に期待されること
- 大学から教師を目指すまで・進路決定までに考えたこと、きっかけ
- 教師生活で・強い印象を受けた出来事

戸次 聡史 (34回生) 公共放送 報道番組ディレクター

放送記者〜テレビ報道の現場

- 放送記者の実際・テレビの記者とは何をやるのか(具体的な日常の仕事)・しごとの意義とやりがい
- ニュースをどう出すか・ある日の各局ニュースのオーダーを比較する・マスメディアの仕事の特徴

内多 勝康 (34回生) 公共放送アナウンサー

アナウンサーの仕事(男性編)

- アナウンサーの仕事とは
- アナウンサーになるには・面白い点、苦労したことなど・仕事の発展の可能性は...
- 男性の仕事としてみたら・男性から見た女性アナウンサーという仕事

田沼 令子 (29回生) 映像翻訳者

翻訳の仕事

- 映像翻訳とは、外国語のドラマやドキュメンタリーなどに字幕を付けたり、吹き替え用の台本を作ったりする仕事です。実例を交えながら、この仕事の面白さや苦労をお話します。また、出版翻訳・実務翻訳・通訳などの語学を生かした仕事に就くための心構えや、具体的な方法についてもご紹介いたします。

伊藤 麻沙人 (20回生) 陶芸家

芸術の仕事・キャリアとは〜陶芸家の仕事

- 陶磁器のできるまで・陶芸家の暮らし
- 「夢の風」について語る 小堀氏と百周年記念モニュメントの前で

古関 恵一 (29回生) 企業研究者・エンジニア米国メジャー-日本法政府業界活動担当

多国籍企業研究者の仕事〜エネルギー産業の場合

- 理系専門分野の特徴・大学教育の内容と、燃料・エネルギー研究者・エンジニアの仕事
- 米国メジャーの業務システムに学ぶこと・外資の仕事の進め方/価値を出すためには
- エネルギー議論が熱い/石油は本当に創産産か・エネルギー産業の特殊性とわたしが考える企業選びの例

今回のプロジェクトの歩みを右に紹介しました。また終了後のアンケートより、希望分野を表にまとめました。次年度は少し進行を早め、さらに円滑な実施と内容的にパワーアップした企画を実施したいと考えております。

異なる時代、異なる人々が集う有機体である同窓会には、現役高校生にお役に立つ同窓会という面があると考えます。今、竹早高校2年生は、秋に文理の志望をきめるなど、社会人や将来の仕事も少し身近に感じる時期だと伺っています。その重要な時期に、90分間を頂き、社会で数十年過ごし「在校生に伝える」という活動は、現役生、卒業生をつなぐ意義ある活動でしょう。

同じ学校に学んだという縁を大事にして、知識や知恵を伝えることを継続したいものです。卒業生皆さんの絶大なるご支援あってこそ実施できている企画ですので、引き続きどうぞご協力をお願いいたします。

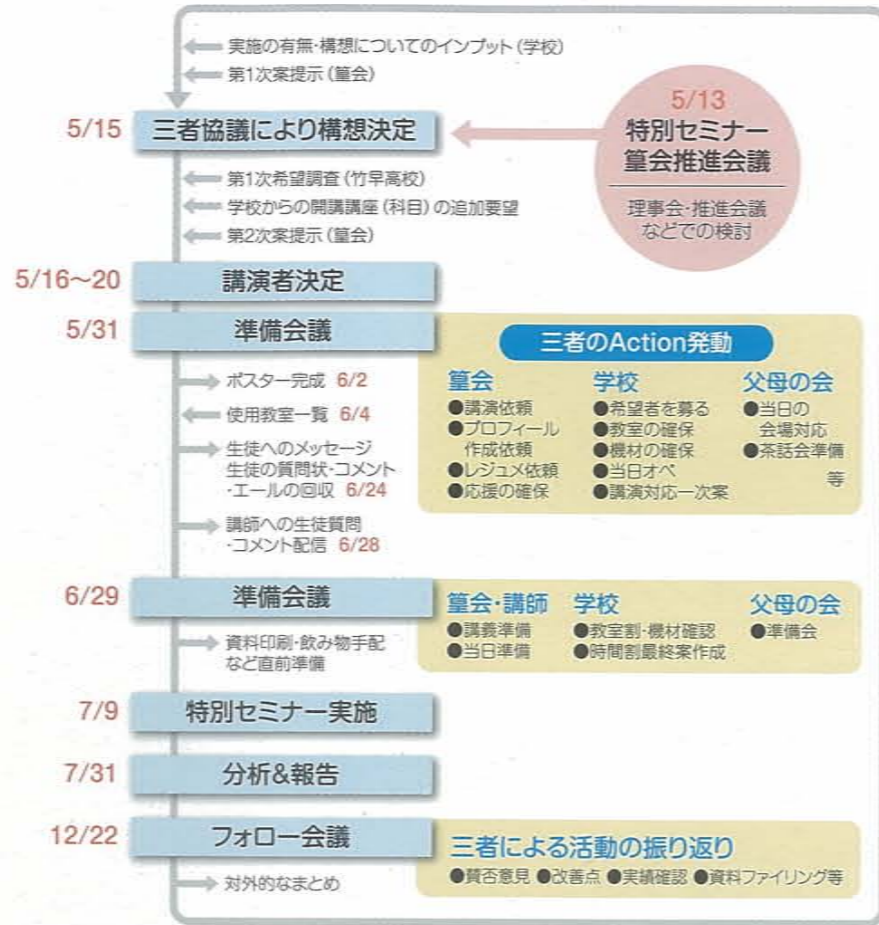
最後に竹早高校発行の「創立110周年記念誌」にて、前校長浅田博先生には、6ページを割いてセミナー3年間の特集記事を組んで頂きました。この紙面をお借りして心から感謝いたします。

特別セミナー担当理事
古関 恵一(高校29回生)



中学校教師の仕事
東京都中学校副校長 大原 章博 先生

●2010年篁会特別セミナー実施報告



●次年度開講希望の書き込みから

音楽関係	11	司書	2	国家公務員	1
美容師	5	食品	2	サラリーマン	1
保育士	5	秘書	2	シェフなど	1
カウンセラー・臨床心理士	4	農業系(バイオ・遺伝子組替)	2	司法関係	1
高校教師	4	福祉	2	障害者に関すること	2
獣医	5	舞台関係・役者	2	新聞記者・テレビ記者	1
ダンス	4	プログラマー	2	新薬開発	1
生物関係	4	漫画家	2	税理士・会計士	1
教師	3	幼稚園教諭	2	タレント	1
警察	3	旅行系	2	電子工学	1
公務員	3	歴史	2	動物分野	1
心理学関係	3	一般的なサラリーマン	1	人気のない分野	1
種類豊富に	2	インテリアコーディネーター	1	パイロット	1
アイドル	2	介護	1	パティシエ	1
アナウンサー	2	海洋学	1	ファッション	1
運転手	2	看護士	1	ブランドビジネス	1
映画関係	2	脚本家	1	プロ野球	1
栄養士	2	キャラクターデザイン・イラストレーター	1	弁護士	1
エンジニア	2	行政書士	1	法律関係・司法書士	1
管理栄養士	2	グラフィックデザイナー	1	山下達郎	1
キャビンアテンダント	2	経済	1	看護教諭	1
建築家	2	芸術関係	1	理系全般	1
考古学者・歴史関係	3	外科医・小児科医	1	経済分野	1
サービス業	2	航空関係	1	総計	143
作家・小説家	2	国防関係	2		

◆32%に書き込みがあった。 ◆非常に多岐にわたっていた。
◆比較的多かったもの 音楽関係/美容師/保育士/カウンセラー/ダンス/高校教師/生物分野/警察/公務員/栄養士など

今年7月14日に開催しますので、ご期待下さい。

なつかしの先生



「変化に富んだ14年間」

芝崎 茂夫 先生

理科・化学担当
(昭和41年4月～昭和54年3月在職)

昭和41年度に赴任した時は、濃紺の制服と荀結びのネクタイ、胸の校章「竹早」の漢字にはプライドがあった。間もなく45年が経つ「高校紛争」の評価は定かでない。一途な生徒の問いにどう正対したか、生徒の手には「教育六法」があった。学校教育法第4条や第13条(学校閉鎖)、学習指導要領を理解しながらの紛争である。部外者の指導があったとしても異質な紛争であった。「真の教育とは」と叫んで教育のあり方が問われた時代である。「詩は評価の対象外である!」、「化学は暗記科目ではない!」 教員の熟論が、「化学特論」を生んだ。受講者は45年度から7年間に210名、実験数108を行った。その後、化学特論は学習指導要領に「特論・課題学習」として公に位置づけられ紛争の成果(?)として誕生した。現行の教育課程にも生きている。「新生竹早の名のもと」スキー教室が復活した。紛争後に相応しい学校行事であった。越後湯沢、蔵王、日光、ボーゲン、シュテム・クリスチャニアなど、今も思い出す。

学校教育に人づくりの大切さが求められる時代に入った。総合学習では理科の実験棟と学大寮の間のネコの額ほどの土地を耕し、堆肥に追肥。春から夏にかけては小松菜、トマト、トウモロコシを、秋には赤カブダイコン、人参で「収穫祭」を楽しんだ。

校内柔道大会には教員の1人として参加し一勝二分。長嶋茂雄氏の「読売巨人軍よ、永遠なれ」、後楽園からの歓声に気もそぞろ。

静かに目を閉じれば変化と内容の濃い歳月であった。



「校舎改築と竹早の伝統」

錦織チサエ先生

国語科担当
(平成元年4月～平成10年3月在職)

私が竹早高校に赴任したのは平成元年4月で、10年3月までお世話になりました。都立高校でも既に、生徒の興味・関心の多様化等で勉強への集中が難しく、学力の低下が言われていましたが、竹早高校には、多くの学校では失われた「よさ」が残っていました。

私は「教科で勝負したい」との思いを強く持っていました。実際に授業は楽しく出来ました。生徒達は勉強意欲・知的好奇心を有し、考えることが出来る人達が多かった。従ってそれなりのプライドを持っていて、能力のある生徒達でした。ただ、もう少しパイタリティーが表に出てきたら、その能力がより発揮できるのに…と惜しまれ、その指導の一端が担えたらと思いました。

ところが私が赴任した次の年・平成2年から校舎の改築が始まり、それは今まで経験したこともない大変なものでした。ある時期には工事中の校舎との間に高い塀を作り、教室の窓が全面的に塞がれて、光も風も入らない閉ざされた中での授業となりました。また入学式・卒業式・文化祭・体育の授業等もすべて外部の施設を借り、日頃のクラブ活動は放課後あちこちに出かけては、また学校に戻るという状態で、落ちついた学習環境がなくなりました。しかも完成まで5年という長期にわたりました。

最も残念だったのは、この間に竹早の「よき伝統」が少しずつ失われていったことでした。学校行事やクラブ活動では、先輩から行事のやり方や精神を引き継いで若さを燃焼させ、その心意気等がまた勉強に反映されていくのですが、生徒達にはそれができない気の毒な時期でした。

今は、若い竹早生達が新しい校舎で、新しい自分達のよき伝統を作っていることでしょう。

学校の活動報告

竹早高校副校長 藤田 稔

簗会の皆様には、平成22年度において竹早高校の教育活動、並びに創立110周年記念式典に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。教職員一同、竹早高校の同窓会・簗会に深く感謝をしております。

また、将来の進路を考える上での貴重なセミナーとして、簗会特別セミナー(平成22年7月9日に開催)では、計画から実施まで細かなご配慮をいただきながら、多くの同窓会の皆様のご協力により、21の講座を設けていただきました。生徒たちにおいてはかけがえのない機会をいただき、今後の進路決定への貴重な時間になったことと思います。

平成22年11月6日(土)の創立110周年記念式典では、多くの同窓会の方々のご出席をいただくとともに、運営費等のご支援をいただき、厚くお礼を申し上げます。

平成22年度の主な行事

- 4月 始業式(6)、入学式(7)、対面式(8)、2・3年保護者会(10)、健康診断(22)、①校外学習(30)
- 5月 体育祭(18)、父母と教師の会総会(15)、竹早塾(15・22)、中間考査(28・31)
- 6月 中間考査(1・2)、3年進路オリエンテーション(3)、授業公開(5)、2年進路オリエンテーション(17)
- 7月 期末考査(2~7)、進路説明会(17)、②簗会特別セミナー(9)、模擬試験(14)、終業式(20)、夏季休業日始(21)
- 8月 ③夏季合宿、④学校見学会(9回)
- 9月 始業式(1)、受験説明会(1)、1・2年課題テスト(2)、竹の子祭(9・10)、⑤竹早祭(11・12)
- 10月 ⑥オープンデー(学校説明会)(9)、中間考査(20~25)、2年模擬試験(28)
- 11月 創立110周年記念式典(6)、開校記念日(7)、⑦オープンデー(学校説明会)(27)
- 12月 期末考査(3~8)、2年修学旅行(14~17)
- 1月 始業式(11)、1・2年課題テスト(13)、合唱コンクール、推薦入試(27)、1・2年模擬試験(31)
- 2月 2年進路講演会(10)、⑧保護者のための進路講座(12)、学力検査(23)
- 3月 学年末考査(4~10)、卒業式(5)、芸術鑑賞(11)、2年進路懇談会(22)、修了式(25)

①校外学習

- 1 学年:相模湖ピクニックランド 2 学年:鎌倉・北鎌倉校外学習
- 3 学年:ディズニリゾート

②簗会特別セミナー(講座名)

- 1) 建築・デザイン 2) 国際金融 3) ブランドビジネス 4) 税理士・会計士
- 5) 竹早高校七不思議・正しい大学の選び方 6) 医師の仕事 7) 翻訳の仕事
- 8) 医用イメージング技術開発 9) 多国籍企業研究者の仕事
- 10) フリーアナウンサー 11) 報道番組ディレクター 12) エステ・鍼灸
- 13) 公共放送アナウンサー 14) 彫刻家の仕事 15) 陶芸家の仕事
- 16) 編集者・雑誌記者・著者 17) ヘルスケア商品研究・開発
- 18) 中学校教師の仕事 19) 大学研究者(歴史学) 20) 女性研究者・技術者
- 21) 製品開発とデザインの仕事 以上 21講座

記念式典の第2部では、竹早高校の明治33年から、現在に至る歴史を「竹早の百年」、「写真で綴る竹早の百年」、「簗会の会報」などを拝見し、それぞれの時代の人達は、「どのような思いで、どのような希望を抱き、高校生活を過ごしていたのだろうか」を想い考えながら、第二部を構成しました。

第二部の前半では、「竹早高校の歴史」を紹介し、後半では、どんなに時代が変わろうとも、竹早高校の生徒たちは常に共通の「思い」を持って、高校生活を送っていたのでは?というテーマから、演劇部、箏曲部、吹奏楽部、ダンス部による創作劇「思いをつないで」を公演しました。

竹早高校は、これからも他の都立高校とは違う味=伝統をいつまでも守り続けることが大切だと思っております。

③夏季合宿 参加者:340名

吹奏楽部、天文部、美術部、箏曲部、バドミントン部、陸上競技部、サッカー部、男女硬式テニス部、男女バレーボール部、水泳部、男女バスケットボール部、ダンス部、軟式野球部 以上 16部

④学校説明会(9回) 参加者:1,359名

平成21年度 1,440名(10回) 平成20年度 836名

⑤竹早祭 来校者:3,838名

平成21年度 3,191名 平成20年度 3,163名

⑥オープンデー(学校説明(2回)) 参加者:919名

⑦保護者のための進路講座 講師:北九州予備校

○竹早塾(8回) 参加者:1年242名 2年49名 3年12名

進路状況(合格者数一覧) 平成23年3月23日現在

- 国立大学
 - 埼玉大学(5)、首都大学東京(4)、千葉大学(3)、東京外国語大学(1)、東京学芸大学(1)、東京芸術大学(1)、北海道大学(1)、名古屋大学(1)、都留文科大学(1)
- 私立大学
 - 青山学院大学(11)、跡見学園女子大学(1)、大妻女子大学(1)、桜美林大学(1)、神奈川大学(2)、学習院大学(13)、学習院女子大学(2)、北里大学(4)、共立女子大学(1)、杏林大学(1)、慶応義塾大学(7)、国学院大学(5)、駒澤大学(13)、芝浦工業大学(4)、順天堂大学(3)、上智大学(8)、成蹊大学(8)、成城大学(2)、清泉女子大学(1)、聖路加看護大学(1)、専修大学(7)、創価大学(4)、大正大学(1)、大東文化大学(2)、拓殖大学(2)、玉川大学(2)、千葉工業大学(1)、中央大学(14)、津田塾大学(1)、帝京大学(3)、帝京平成大学(1)、東海大学(2)、東京医療保健大学(1)、東京家政大学(5)、東京女子大学(1)、東京電機大学(6)、東京都市大学(2)、東京農業大学(4)、東京理科大学(13)、東邦大学(2)、東洋大学(23)、独協大学(8)、日本大学(34)、日本女子大学(6)、日本福祉大学(1)、文教大学(1)、法政大学(33)、星薬科大学(1)、武蔵大学(4)、武蔵野大学(2)、明治大学(46)、明治学院大学(13)、目白大学(1)、立教大学(24)、立正大学(2)、和光大学(1)、早稲田大学(21)、津田塾大学(2)
- 大学校
 - 防衛大学校(1)
- 短期大学
 - 青山学院女子短大(1)、上野学園短大(1)、東京農業短大(3)
- 専門学校
 - 日本赤十字看護(1)、文化学園(1)

在校生の活躍紹介

竹早生のほとんどが積極的に参加し、青春の健在ぶりを示す部活動。中でも華々しい活躍で注目を浴びる二つのクラブを紹介します。

吹奏楽部

部長 武松 志保

私たち吹奏楽部は、部員達の間で通称「竹吹」と呼ばれ、部員数49名の大所帯です。夏のコンクールや文化祭、地区音楽会、定期演奏会を初め、入学式や式典、卒業式などでの演奏のための練習で毎日忙しい日々を送っています。

竹吹の特徴は指揮や日々の練習計画、さらに演奏会の構成など部の運営のほとんどが生徒によって行われているということです。そのため様々な問題も起こります。しかし、この形が続いてきたのは、問題が起きても部員同士で話し合い、解決策を探してきたからです。その結果、部員間の仲はとても良好です。

音楽の発表会は試合のように勝敗がないので、目に見える具体的な目標を立てるのがとても難しいです。それでも頑張ることができるのは、顧問の先生や講師の先生たちの支えと、素敵な仲間達と共に音楽を作っていくからだと思います。今後この気持ちを忘れず、聴衆の心を動かすことのできる演奏をしていくために頑張っていきたいと思っています。



《校外での発表》

- H22年8月13日 第50回東京都高等学校吹奏楽コンクール
- H22年11月28日 平成22年度東京都高等学校文化連盟音楽部門第4地区大会
- H23年1月5日 第34回東京都高等学校アンサンブルコンテストクラリネット八重奏
- H23年1月9日 平成22年度東京都高等学校文化祭音楽部門中央大会
- H23年3月29日 都立竹早高等学校吹奏楽部定期演奏会

バドミントン部

部長 矢崎 貴大

私たちは、現在男子14名、女子12名で活動しています。先輩方の記録に少しでも近づこうと、特に国公立大会での上位入賞を目標において、日々活動に励んでいます。

私は、この部活動が竹早高校の自主自律の校風を最も反映した部活動の一つではないかと思っています。練習メニューは自分たちで考え、大会のメンバー決めや申し込みなど生徒ができるものは全てやる、ということはもちろん理由の一つではありますがそれだけではありません。もっとも大きな理由は、部員一人一人が自由の中にある責任を感じて、練習に臨んでいるということです。

楽な練習メニューを組み、それを続けていても誰も文句を言わない。適当に練習をこなしていても誰も怒らない。自由でできるということは、これらのことがいとも簡単にできるということですが、この部活の部員にはそんな意識のもとに練習をしている者はいない。

それは、自分の練習への姿勢が、全て結果として返ってきて、その結果がどうであろうと誰のせいにもできないことを知っているからです。

だからこそ、私たちは自分を追い込む、またチームとして厳しい練習を行おうとすることで、自由に練習できることへの責



任を果たそうとしています。そして、そこで生まれた友情が、たった一人でコートに立たなければならない時、自分の勝敗でチームの勝敗が決まるという時、自分の100%の力を出す支えになると、私も他の部員も信じています。

とは言っても、まだまだ自分たちに甘いところがたくさんあります。それが故に、結果で責任を果たすことはまだ多くなく、くやしい思いを大会のたびにしています。この思いを糧に、今後更なる厳しい練習を乗り越えて、自由に対する責任を果たしていきたいと思っています。

大町真須子 高校4回生(昭和27年卒)筆52回生

米国での教師生活

大学卒業後渡米し学業に励んでいた際、知人の勧めで青山学院の卒業証明書を州の教育庁に提出したところ、それが認可されて、すぐに仮免許証を交付され、公立小学校で1年生を教える機会をいただき、考える間もなく教師生活を始めてしまいました。とは言っても、指定された科目が30単位近く不足したため、昼は慣れない教師生活、夜と週末は大学に通うという生活を続け、3年後に本免許をいただいて、以後27年間公立小学校で教えてきました。

最も驚いたのは、読み書きを習得できなかった1年生を留年させることでした。そして私が最初に受け持った仕事はそのクラスでした。死に物狂いでよい教え方を模索した毎日でしたが、どうやら功を奏したのか、その後3年間受け持たされました。それは私に自信を与えてくれた素晴らしい経験となりました。

日本の出版社から2冊の本を出していただいたり、いろいろな経験を積んで27年、主人の退職に伴って私も公立小学校教育から退職しました。すぐに病気になって車椅子生活になった主人の介護をしながら、教育テレビやカトリック大学から日本文化の紹介や、日本語を教える仕事を頂き、主人が亡くなるまでの10年近くパートタイムで教えてきました。

数多くの経験、楽しかった日々、苦難の日々などの思い出とともに、2004年に生まれ故郷の東京へ戻ってきました。これらの経験をさせていただくためにご尽力くださった、主人を含む多くの皆様に少しでも報いるため、ボランティアをしたり、英語を教えたりして、日々楽しく過ごしております。



鈴木 一弘 高校10回生(昭和33年卒)筆58回生

我が竹早高校のタテ編のユニホーム

董会の皆さん、初めまして。高校10回生の鈴木一弘と申します。今は亡き国広功竹早野球部顧問先生(平成17年7月27日に74歳で逝去)のもとで3年間野球(軟式)をやっていました。私は副部長、ピッチャーで3番を打っていました。正部長はファーストで4番を打っていた浅井哲男君でした。(元日本フェンシング協会専務理事。平成13年11月3日藍綬褒章を受章)

さて、私の無知から新しいユニホームを作った時、国広先生に多大な迷惑をかけてしまいました。

私は小中高とユニホームは白一色でした。その白一色に辟易していました。そこで浅井部長と相談して、新ユニホームは、

①とに角白いユニホームだけは絶対に作らない。

②竹早高校の「竹」をなんとか反映できないか。

③高女時代からの伝統ある校風を感じさせられないか。

そして放課後、私は神田のスポーツ店を1店1店見て回り、結果2ヶ月後、ある店の前で立教大学の長嶋選手のポスターを見て、その素晴らしい笑顔に魅せられてその店に入り、よく見るとユニホームにタテ編が入っており、そのタテの線の間が「竹」に見えました。そして店員に生地見本を見せてもらいました。意外に派手に見えましたが、白とは違う「品」みたいなものを感じ、持ち帰って早速部員一人ひとりの意見を聞くと、全員賛成でした。

ところが当時の規定では白以外は認められていなかったのです。一時は出場停止かと噂された私のミスを先生の尽力で、翌年の春の大会に無事出場することができました。ユニホームに関して、国広先生は全国の高校球児に夢と希望を与えてくれました。これが国広先生時代の野球部のタテ編ユニホームの誕生のきっかけとなったのです。

現在、董会の理事をされている内山光政さんとは、ずっと同じクラスでした。卒業後も同じ大学ということもあり、時々内山さんの家に泊めていただき、内山家の有名な「スキヤキ」をご馳走になりました。その美味しさは天下一品でした。



後藤 栄子 高校21回生(昭和44年卒)筆69回生

人生のパッチワークを創造する

60歳の今、多くの竹早同期生と再会したり、勤務するハローワークで職業相談を担当したりして、「ライフキャリア」と言うことを考えるようになりました。「人生のパッチワークを創造する」(ハンセン)と言う理論に、共感しています。

ライフキャリアは、人生の役割がパッチワークのように縫い合わされ組み合わせられて「ひとつの意味ある全体」になるものである。人生の役割について、4つの要素が統合されなければならない。4つの要素とは、「ワーク(ライフワークやボランティアワークも含む)・楽しみ・学習・愛」である。ライフキャリアは、直線的にすすむのではなく、「螺旋的に発達する」「自分らしいオリジナルなライフキャリアを創造したい」という理論。

私は、57歳で転職した後は、残りはゆったり過ごすだけ何の目標もなく来ました。しかし、「人生90年、65歳まで中年期」なら、「人生のパッチワークを創造する」余地がまだまだあることに思い至ったのです。

「仕事・学習・余暇・愛」の4要素で考えたところ、私は、今までの集大成として「学習」を縫い合わせよう、65歳までに国家資格を取得! 「仕事」は70歳まで広げて縫い合わせよう。そんなとんでもないライフキャリアプランを思いつきました。プランは、変更・方向転換を余儀なくされることもあるのですが。

さて最近、元気澁刺な竹早同期生と多く逢う中で、病床で過酷なまでの闘病生活を送っている同期生にも逢います。闘病中の彼女は、多くの同期生の絶え間ない見舞いを受けて、動けない体に笑顔を創ってくれます。免疫力を高める笑顔を実践してくれているのです。彼女は今、「愛」の人生役割をパッチワークで縫い合わせている、と私には確かに思えます。

60歳の今、ハンセンの理論に出会って、さまざまな思いが整理されました。「ワーク・楽しみ・学習・愛」……多くの同期生に逢い、それぞれのパッチワークに感銘を受けています。そしてこれからもずっと「人生のパッチワークを創造」したいと思うこの頃です。



竹早山荘にて(後列左から3人め)

石塚 範子 高校24回生(昭和47年卒)筆72回生

竹早の思い出

昭和44年4月に入学した我が1年D組は、ホームルームが家庭科室という風変わりなスタートを切った。幅広の長机に3人掛け。お互いの距離が近く、緊張感を払拭するには有効だった。八ヶ岳の合宿や竹早祭が、さらにクラスの凝縮度を高めた。



校舎改築のため新宿高校の旧校舎に移転してからは、ユニークな体験が待っていた。とりわけ、体育の校外授業が一番印象に残っている。校庭や体育館が使えず、柔軟体操やランニングを隣接の新宿御苑で行った。その御苑を通り抜け、国立競技場のタータントラックでは走り幅とび。水泳の授業は代々木オリンピックプール。どれも貴重な体験であった。運動音痴の私が、体育の授業が楽しみになったほどである。新校舎移転後も、湯島のプールや池袋のアイススケート場へ繰り出した。

とにかく新宿当時は、毎日が新鮮かつ刺激的だった。授業を抜け出して観た映画、昼休みに食べたグルメなランチ。みな捨てがたい思い出だ。

唯一マイナスの出来事は、連日の生徒集会やその先のバリエード封鎖。親の心配をよそに、休校を喜んでいた幼稚な高校生だった。

だから2年生の後半に新校舎に戻ると、早速「楽しい1年」の付けが回ってきた。しかし時すでに遅し。ようやく滑り込んだ大学で、今度こそ!と本気で思った覚えがある。

竹早の3年間は、私にとって仲間と過ごした楽しい時間しかない。恥ずかしいが、真面目に勉強した記憶も無い。それでも、この十代の思い出は、折にふれ私を幸福感で満たしてくれる。

今、当時を振り返り、先生方の寛大さ・寛容さに敬服し感謝するのみである。

自主・自立と責任

教育実習を竹早定時制、教員初任の学校が隣の茗台中、定時制で現代社会も教えました。失礼なもの言いますが、皆さんが思いになるような「竹早、我が母校」という懐かしく温かい響きには、まだまだです。

群制度の下、私立受験に落ち小石川に行けなかった時の気持ちの揺れを忘れられません。入学直後、朝から夕方まで小石川植物園の芝生の上で読書の時期もありました。母も担任の岡嵩先生も



このことを知っていましたが、叱責はなし。「やるしかない」と心に決め登校再開、自分の思いと同じ思いをもつ友人たちにも力づけられました。自分で解決する=自主・自立と責任、竹早のすごさを感じました。

義兄、自分の子どもは小石川。何かの因縁でしょうか。妻は竹早の同級生。この文章も、初めて教頭として勤務した学校の校長が先輩の岩瀬正司先生、元上司の業務命令？学校という職場でも、同窓生と仕事を一緒に組みました。熟々、竹早の力を感じます。

現在、杉並区立高円寺中学校校長として、義務教育九年間、学びの主体である子どもの学びの連続を確かなものにするために、小中一貫教育モデル校の教育に取り組んでいます。環七をはさみ隣接する杉並第四小学校5・6年生が中学校校舎で中学生と一緒に生活する、5・6年が中学校教員の授業を受ける等、類例はありません。なぜ小中一貫教育か、そのメリットは何か、私立や他の中学校には行けないのか、たくさん越えなければならない「壁」があります。60年以上も続く義務教育のシステムを改革していくことは容易ではありません。子どもの夢を壊さず、さらに大きく、実現できるようにする果てしない挑戦です。自主・自立と責任、竹早で学んだからこそできる。「竹早よ、我が母校」そう思えるまで、もう少し時間がかかりそうです。

自主自立は私の基礎

竹早高校を卒業して、私は大学に通っています。入学当初は中学や高校とは違う大学の自由な雰囲気にとっても戸惑いました。しかし私には竹早のできる限り生徒だけで部活や行事を運営した経験があったお陰で、今までのような受け身の態勢ではなく、自ら積極的に何かしないと何も変わらないということにすぐに気付くことができました。だから今では私は勉強も人間関係もとても充実していると感じています。

この文章を書くのにあたって竹早での高校生活を思い返してみると、楽しいことも辛いこともたくさんありましたが、それは単なる思い出ではなく、こうして今の私の役に立っているのだと改めて気付かされました。

高校時代の様々な経験が今役に立っているように、大学での経験も社会に出てから役に立つのだろうと私は考えています。だから勉強はもちろんのこと、課外活動も本気で取り組み、この大学の4年間で色々なことを吸収したいと思っています。

竹早には行事好きが多いことはわかっていますが、今竹早生のみなさんにも勉強だけでなく、行事や部活などの課外活動にも本気で取り組んでほしいと思います。

私は将来、農業の研究をしたいと考え、今の大学を選びました。何故なら、地球の環境に優しく、簡単に大量栽培ができて、尚且つ安全な作物を作れる農業が実現できたら素晴らしいと思うからです。

研究をする上で必要なのは学力や専門的な知識だけだと思われがちですが、実はコミュニケーション能力や実行力がとても重要であるということを大学で学ぶことができました。つまり竹早高校の教育方針である自主自立の精神が自分の基礎を培ってくれたことは、これから歩んでゆく自分の将来に勇気と少しの自信を持たせてくれたような気がします。



関西箕会だより

みなさま、こんにちは。

平素は関西箕会の活動へのご理解また会報へのご寄稿などのご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

平成22年度の総会は、11月28日(日)に、梅田のホテルグランヴィア大阪にて開催されました。まさに山粧い、御堂筋の銀杏並木の黄葉美しい、良い秋晴れの日でした。

例年東京より磯貝会長のご出席をいただいており、興味深いテーマでのお話を聞けることは大きな楽しみとなっております。今回は竹早創立110周年記念式典の様子などをお話下さり、一同耳を傾けました。

出席者は17人、この数年20人前後という少人数の集いとなっておりますが、素敵に年齢を重ねておられる先輩方のお話をうかがったり、互いの日々の暮らしぶりや物の考え方などを世代を超えて話合えるのは本当に嬉しいことですね。仕事・スポーツ・ボランティア活動……話題は尽きず、テーブルを囲んで楽しいひとときを過ごすことができました。

関西箕会は数年後に100周年という大きな歴史を刻もう

としております。これまで築かれてきた伝統を引き継ぎ、ささやかでもこの活動が末永く続けられることを願っております。今後共どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年度の総会は、11月20日(日)に、同じくホテルグランヴィア大阪で予定しております。交通至便な大阪の中心地でもありますので、是非全国からのご参加をお待ち致しております。

結びに、箕会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



湘南箕会だより

22年5月15日(土)に総会と懇親会を、例年通り鎌倉市七里ヶ浜の「鎌倉プリンスホテル」で行った。

本年も橋本、薬師寺(それぞれ高女35回生)、加藤(高女38回生)諸先輩を始め多数の高女出身の方々にご参加いただいた。本年は磯貝会長が体調不良で欠席のため、代わりに代表幹事の影本がその挨拶の中で、11月に「竹早高校創立110周年記念事業」への参加予定等、本年の「箕会」の行事を紹介した。次に、田村幹事(高校6回生)から会計と会員異動の報告があり総会は終了した。

懇親会は、例年通り元会長・松本紀子様(高女41回生)の乾杯で始まり、当ホテル自慢のフランス料理を賞味した。会食後、田中道子様(高校17回生・歯科医開業)に話をいただいた。同女史は20年程前海外(特にスイス、スウェーデン)で学ばれた際デンタルインプラントにめぐり合い、現在その普及に努めておられ、これにより多くの方々に質の高い人生を提供できるものと確信されておられるとのことであった。なお、ご主人と3人のお子様方も歯科医師で、現在

と一緒に診療されているとの事である。引き続き高女・高校それぞれの校歌を斉唱し、中田幹事(高校6回生)の閉会の辞でお開きとなった。

なお、「平成23年度の総会・懇親会」は次の通りです。地域外からの参加大歓迎です。

日時：平成23年5月11日(水) 12:00~14:00
場所：鎌倉プリンスホテル



竹早祭における 「お休み処たかむら」の存在意義



平成22年度の竹早祭は、9月11日・12日の2日間、連日34℃を超える猛暑の中、開催されました。

篁会は、今年も「お休み処たかむら」を開設いたしました。今年の会場は、2階の角部屋で階段を上がってくると最初に目に入る非常にわかり易い場所でした。加えて最高気温が34℃と高いうえに竹早生の熱気や見学者の多さから館内はさらに暑くなり、「たかむら」への来場者は例年を大きく上回る数となりました。1,200個用意したカップが、初日を終えた時点で350個しか残らず、翌日、紙コップを補充せざるを得ない状況でした。カップを用意した数と残った数から割り出すと、最終的に延べ1,550人が来場したことになります。

当初、入口の外に立って、コーヒー・冷たいお茶・なっちゃんなどをサービスしていますので、どうぞ休んでいってくださいと呼び込みをしていましたが、階段を昇降してくる見学者の中には、「たかむら」がここにあったという感じで、「たかむら」の存在を知っていて、あそこに行って休もう、と予備知識を持って目指してくる人が結構いること、在校生は、あそこへ行けば、タダで冷たいものが飲めてお菓子も食べられるし、息抜きの場所にうってつけだという感じで目指してくるので、呼び込みをする必要はないものと判断し、

途中で止めました。時間帯によっては、座る場所が無く立ち飲みをする人が出るほどでした。

何人かの来場者にこの「たかむら」という名前の意味をご存知ですか？このお休み処の目的をご存知ですか？と質問してみました。竹早高校同窓会の名称が「篁会」であること、その同窓会の認知度を向上させることを目的に、竹早祭に参加していることを認知している人は在校生を含めてほとんどいませんでした。このことは、今後、検討の余地がある点であると痛感いたしました。

また、座る席がなくて立ったまま飲んでいる人がいるにも拘わらず長時間に亘って席を占領しているグループ、家族との待ち合わせ場所にし、ひとり先に来ていつまでも戻ってこない待ち人を待っている人など、趣旨の認識に疑問を感じる利用者も中にはいました。

しかし、大多数の利用者が、「ごちそうさまでした。おいしかったです」と言ってくださるのを聞くと、存在意義の大きいことを実感しました。

多くの理事ならびに手伝いに来てくださった同窓生などの力によって、今年も来場者に感謝される「たかむら」が運営できたことを感謝いたします。

「お休み処たかむら」

平成22年度の実績

【開催日時】
9月11日(土) 9:30~15:00
9月12日(日) 9:30~14:30

【場所】
竹早高校 2F 3B教室

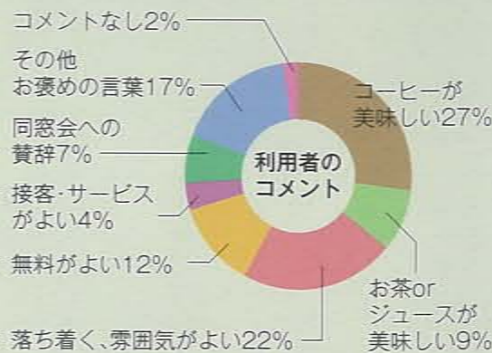
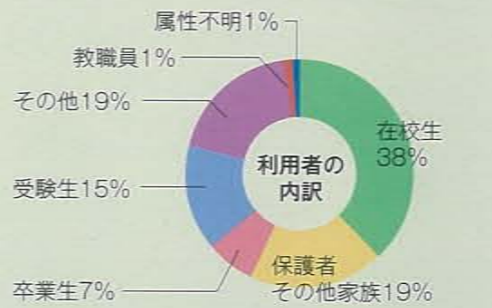
【天気】
9月11日(土) 晴れ 気温34℃
9月12日(日) 晴れ 気温34℃

【動員数】
2日間で約1,550名
(紙コップの数量から推計)

【運営内容】
①本格コーヒーの無料提供
②ソフトドリンクの無料提供
③「映像でたどる竹早の100年」放映
④パネル展示
⑤アンケートの実施

アンケートの回収結果

回収数552 (ひとつの回答に複数のコメントがある場合はそれぞれを抽出してカウントした)



『篁』回覧板

【開催しました】

15回生同期会

2010年11月14日(日)、「60年安保」の年に入学した15回生は節目となる6回目の同期会を後楽園、涵徳亭で開催。50名が集まり織戸先生にも参加していただき、深まる秋の一日、久しぶりの再会を喜び合いました。

19年前に1回目の同期会を始めて以来4年毎に開催してきましたが、今回は2年毎にしようかと幹事で決定しました。還暦を迎えたのがついこの間、大半が年金生活に入り、近況報告では優雅な生活とまでいながらもそれぞれ今までと違うライフスタイルをとっていることがうかがえました。

二次会は東京ドームホテル最上階のラウンジで夜景を眺めながら祝杯をあげ、さらに水道橋周辺の居酒屋などに流れて行き、夜遅くまで盛りあげました。また元気に再会したい、そして来られなかった仲間が次回は来てくれることを願っています。

土田 善則

23回生同期会

平成22年11月6日、23回生の学年会は華やかに開催された。

私たち23回生は、学校群制度2期目の入学。男子生徒のみならず女子生徒までが「本当は小石川に行きたかった。」という複雑な想いで集まった同級生たち。そんな私たちは竹早高校を卒業して早39年、私たちを知る先輩・後輩の皆様から羨ましがられるほど仲が良い。回を追うごとに間隔が狭まる学年会の今回の会場は、同級生Tが社長を務めるグランドプリンス赤坂の最上階に位置する「トップ・オブ・アカサカ」。社長の威力を最大限に活用(悪用?)して4時間貸し切り!

しかし、困ったことが一つあった。それは、竹早高校110周年記念祝賀会が同時に開催され、そこでのアトラクションに同級生Iが招かれ、チェロ演奏をするということだ。これを知った以上、同級生として知らぬ顔は出来ない。ということで学年会の開会イベントが終わるのを待って、会場を抜け出しタクシーに乗って市谷へ行き、Iの演奏にエールを送り、再び学年会会場に戻る。佳境に突入した学年会は同級生のギター伴奏による校歌などの合唱(絶唱?)をして解散したものの、2次会・3次会と果てしなく流れていた。

中村 光宏

篁会ホームページ
<http://www.takamurakai.com>



篁会連絡用電話
090-8853-1901

篁会のホームページは専用のサーバーで運用されています。総会のご案内、学年会やクラス会の情報ははじめ、これまで発行された会報「篁」のバックナンバーなどもご覧いただけます。また現在の校歌のほかに府立第二高等女学校の校歌を聴くことができます。まさに温故知新の体験ゾーンと言えるかも知れません。

清里高原 竹早山荘から

お陰さまで50周年

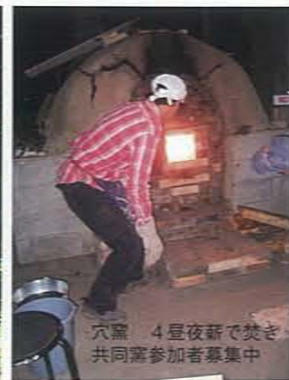
1960年～2010年

八ヶ岳寮→竹早山荘



2011年 竹早山荘は?

- *青春の思い出の場所
- *自然と一つになれる場所
- *人と人が、心と心が一つに繋がる場所
- *体を動かし・呼吸し・食事し・生きている実感の湧く場所
- *自然の循環の中で生かされていることに気づく場所
- *平和と共生の大切さに思いが行きつくところ



穴窯 4昼夜薪で焼き
共同参加者募集中

林・池・湿地・草原等変化に富む敷地内は、多様な体験活動の場として最適です

山荘の環境を守るボランティア 参加者募集中

ボランティアの皆様のお陰で、明るい森になりました。自然の中で体を動かし、気持ちのよい汗をかきましょう。森の中での活動は何より癒されます。自然との付き合い方が判ります!

■ヘイ・ヘイ・ホー森林整備隊 草刈・除伐採・薪割りを中心とした自然環境整備

■ルン・ルンヘルパー隊 清掃・メンテ等、山荘の生活環境整備

活動日/5月・7月・9月・11月の第2週末(土・日)
参加費/3,500円(食費・保険料含む・交通費は各自負担)
募集人員/各10名

お陰さまで...

竹早高校創立60周年記念事業として学校・PTA・同窓生の協力によって建てられた竹早山荘(八ヶ岳寮)です。有志の皆様が賛助会員になっていただき、施設の維持と整備を行ってまいりました。皆様のサポートがあつてこそ、これからの活動を発展させることができます。賛助会費を継続募集いたしますので、ご支援ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

振込み先 竹早会 みずほ銀行(駒込支店) 普0463246

☆お問い合わせ・お申し込みは「竹早会事務」へ
TEL 03-3943-2415 FAX 03-3941-5872

E-mail: takehayakai@forest.ocn.ne.jp
ホームページ http://www32.ocn.ne.jp/takehayakai/

竹早山荘 検索

第4回 篁会学年幹事連絡会報告

2011年1月22日(土)16時～17時まで、第4回「篁会学年幹事連絡会」を文京アカデミー茗台7階会議室で開催致しました。学年幹事連絡会は篁会の同窓会活動・会報発行などの継続に欠かせない集いとして、会員名簿の共有、篁会活動との連携強化、会費納入への協力依頼などをテーマに、2008年2月に第1回が開かれました。

今回は幅広い学年間の親睦もその目的に、総会幹事を終えた学年から、一番若い篁会会員にまで呼びかけてお集りいただきました。情報の交換の場として、さらに拡大していくことを理事会で決定しております。冒頭、役員会長より、篁会活動のお話があり、ご協力についての謝辞があり、続いて、各理事が活動の説明をしました。

①特別セミナーの開催について...古閑理事

②竹早祭「お休み処かむら」出店について...中村副会長

③篁寿会開催について...佐藤理事

④次期総会について...21回生吉岡新さん
本年6月19日に東京ドームホテルB1
天空にて開催

⑤創立110周年記念シンボルマークの
応募状況、選定方法について...板東理事

⑥会報の進捗状況について...香川理事
次に、各学年幹事より、同期会、クラス会等の開催状況についてのご報告がありました。

①13回生...板東尚武さん

②15回生...土田善則さん

③19回生...菅原哲朗さん

④29回生...町村庸子さん

⑤32回生...横内信子さん

1時間という短い時間でしたが、熱のこもった意義ある懇談会でした。

毎年同期会を開催している学年、クラス会のみで同期会は未定など、学年により、様々ですが、篁会の「同期会サポート」*をご希望の「卒業年度」は是非ご連絡ください。

今回、卒業後1～3年の学年幹事の皆様には、日程の関係などから連絡がとれませんでした。下記アドレスまで、同期会開催状況など、ご連絡いただけましたら幸いです。

〈連絡先〉qanm2dwd@bloom.ocn.ne.jp

篁会学年幹事連絡会担当理事

野川淑子(高校18回生)41年卒

*同期会サポート...名簿の提供、はがき発送までサポート



第4回 篁寿会開催

第二高女の拡大版同期会です

2010年9月18日(土) 学士会館にて



2010年度もいつもの学士会館の、いつもの部屋で9月18日に開催されました。

ご出席くださる方々にとっては、お仲間とのおしゃべりがメインディッシュとお考えと思い、あまり凝った演出はせず、6月の篁会総会で好評だった「フェニックスの折り紙」と、恒例の抽選会をお楽しみいただきました。

会報にお知らせを同封して、通信費を節約しております。そのため、だいぶ早めのご案内になるのですが、「出席予定」の方だけでなく、「出席したいけれど、もう少し近くなってから決定」という方も、「出席」に○をつけて返信はがきをお送りください。

9月に入りましたら、その方々には、もう一度確認のご案内をお送りいたします。確定は、それから結構です。

高女に入学なさった学年のみならず、どうぞこの場をクラス会にご利用くださいませ。同期の方々は一括のテーブルにご一緒にお着きいただきます。

二次会に別室をご希望のクラスも、ご相談くだされば、喜んで手配のお手伝いをさせていただきます。

次回 第5回 篁寿会

2011年10月29日(土)会場は学士会館です。詳しくは会報同封のご案内(ピンクの封筒に入っています)をごらんください。たくさんの方のご出席をお待ちしております。



平成22年度「箏会総会・懇親会」報告

平成22年度の箏会総会及び講演会、それに続く懇親会は、6月20日、東京プリンスホテルのプロビデンスホールで開催されました。出席者は来賓6名、高女5名、高校205名の総勢216名でした。中でも担当学年の20回生は56名、来年の担当学年の21回生は10名、新入会員は75名の参加でした。

●総会

高校20回生の岩瀬正司さんの司会のもと、磯貝会長の挨拶で始まりました。この1年間の活動状況、今年の11月の110周年行事のお話、そして「今年が目玉はトーク&トークです。私も小野教室の卒業生です。」と美術部でのお話が続ききました。

議長は19回生の木村民子さんが選出され、新任理事承認、21年度の事業報告、決算報告、監査報告が行われました。引き続き22年度の事業計画案、予算案についての趣旨説明、新任監査の選任が行われ、すべて承認されました。

また、板東尚武さんより110周年記念シンボルマーク募集について説明があり、承認されました。



●トーク&トーク

小野寺典子さんの司会でバリ在住の画家、靑島正雄さんと秦野市在住の陶芸家、伊藤麻沙人さんの対談が始まりました。三人とも20回生です。最初にお二人それぞれのNHK



トーク&トーク司会
小野寺典子さん

の番組映像がスライドで上映されました。その後、靑島さんのお話が「20年ぶりの帰国です。こういう場でお話ができるということで胸がいっぱいです。」というように始まり、自身の作品について20枚のスライド(風景画・静物画・人物画)を見ながら説明されました。人物画の中にはフランス人の奥様を描かれたものや自画像もありました。続いて伊藤さんも、18枚の作品のスライドを見ながらのお話が続きました。15枚目の作品の、「この桜の大壺は、実のところ、随分うちの家族を養ってくれた作品です。」という部分では会場から大きな拍手と笑いが起こりました。

作品についての説明の後、お二人の対談は予備校時代や美術学校時代の苦労話を交えて進みます。「鍋をしようよ、と言って、白菜を買ってきて、白菜だけの鍋をやったね。」とか「僕は石膏デッサンが相当うまいと思っていたんだけど、靑島はそれの上を行っていたね。」とか小野先生の「芸大は全国区でしょ。運動部だって全国区の試合



画家・靑島正雄さん



陶芸家・伊藤麻沙人さん

に出るからには昼間だけの練習では足りないでしょ。美術部だって夜まで練習(デッサンなど)しないとダメでしょ。」という教を几帳面に実行したなどのお話が続きました。楽しいトーク&トークの1時間はあっという間に過ぎていきました。

●懇親会

司会は20回生の北澤恵子さんの担当に変わりました。「今日のお料理はバイキングではありません。着席buffetですので、一度に大勢の人が席を立つと混雑して危ないです。二つのグループに分かれて時間差をつけてご案内します。」として、四捨五入すると60歳になる前後を分けてアナウンスしました。トラブルなく楽しいお食事タイムが進みました。

●箏会PRコーナー

マイクが20回生の香川洋子さんに渡り、110周年を記念した「羽ばたくフェニックス」の折り紙を、出席者全員でスライドを見ながら、説明を聞きながら、お隣同士相談しながら作り上げました。「今年が学校創立110周年です。ここに220羽のフェニックスが羽ばたいています。小さく見積もって1羽が1年

だとしても、今後220年間、我が校は不滅です。」との宣言があり、パタパタ、パタパタ、金色・銀色・銅色のフェニックスが一斉に羽ばたきました。見事でした。

●校歌斉唱

110周年ということで、生伴奏で歌いたいという意見があり、伴奏者を募集しました。その結果、4つの楽器で演奏する事が出来ました(ハーモニカ・フルート・ファゴット・ミニキーボード)。

指揮担当は20回生の桑原薫さんです。高女の校歌を作曲された岡野貞一先生の楽曲の紹介「春の小川」「おほろ月夜」「故郷」、高校の校歌を作曲された平井康三郎先生の楽曲の紹介「スキーの歌」「ゆりかご」「とんぼのめがね」、それぞれのメロディが演奏されました。「私たちの校歌を作曲された先生方は、こんなに素敵な曲を作曲されていたのですね。親近感がわきました。」というコメントが述べられました。



平成22年度 箏会総会・懇親会



幹事学年20回生一同

した。

実は今回の110周年において、「若い方々に第二高女の校歌を歌ってほしい。」として59回生から62回生の出席者全員に第二高女の楽譜と手紙を郵送してありました。若い方々がよく練習してきて下さり、伴奏者の素晴らしい伴奏によって大きな声で校歌斉唱をすることが出来ました。よかったです。

●次回総会案内

21回生の吉岡新さんから来年の総会の案内がありました。(1ページ目をご参照ください。)

●閉会の辞

20回生の椎名敏雄さんから、自身の来し方のこと、今日の出席のお礼等が述べられました。大きな拍手に包まれて、暖かくも充実した本年度の総会・懇親会も無事終了しました。

●総会・懇親会お開きの後

名札を回収するため、箱を持って会場出口に立っていた4人の準備委員は、それぞれが、溢れるほどの嬉しいお声かけを頂きました。「本当に楽しかったわ。」「また来年も出席するわね。」「校歌の生演奏が素晴らしかったわ。」「折り紙を孫と一緒にやってみるよ。」などなど。総会準備委員会の委員の努力が実った瞬間でした。

平成22年度「箏会総会」会計報告 (単位:円)

●取入		●支出	
会費	1,040,000	会場費・懇親会費	1,630,300
祝金等	108,000	講師謝礼	40,000
箏会より補助	643,674	プログラム等印刷代	34,375
		通信費	43,300
		その他	43,699
合計	1,791,674	合計	1,791,674

